

NPO 自立支援センター ふるさとの会

2009.1.25
【第1号】



これはHTML形式のMAILです。オンラインで無い場合は画像が表示されない可能性があります。

※ふるさとの会のメールマガジンをご愛読いただき、誠にありがとうございます。今後もふるさとの会の活動内容を定期的に情報発信させていただきたいと存じます。

INDEX

1. 年頭のごあいさつ 佐久間裕章代表理事
2. 越年冬まつりのご報告
3. 就労支援ホーム「はるかぜ」と「二丁目ハウス」開設しました！
4. 地域生活支援センター「すみだ」ガレージセール報告
5. 北九州支援機構20周年記念講演会と北九州研修
6. シンポジウム「全国縦断講座 援助の必要な刑余者の地域生活支援」
7. 今月のボランティア

1. 年頭のごあいさつ NPO法人自立支援センターふるさとの会代表理事 佐久間裕章

メールマガジン読者の皆様、本年最初の配信号であるこの場をお借りして、新年のご挨拶を申し上げます。本年もどうぞ宜しくお願いいたします。

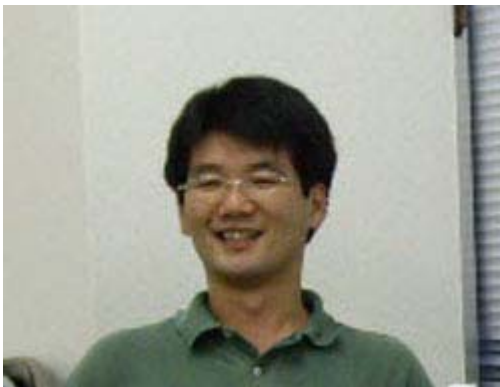
さて、ふるさとの会では本年から、疾病や精神障害、母子世帯など自立阻害要因をお持ちの方々への本格的な居住・就労支援をスタートします。すでに昨年12月に就労支援ホーム「2丁目ハウス」と「はるかぜ」を立ち上げました。就労支援ホームには被保護層で就労を目指す方々が入所されています。ホームでは、まず生活の安定を図り、体験就労を重ね、仕事への意欲と自信を回復し、技能講習・職業訓練のコーディネートまでをトータルに行ってゆきます。技能講習としては、介護福祉関連産業への職域転換、ヘルパー資格取得などを有力なプログラムとして準備しています。

ふるさとの会では、上記のような方々への新しい支援の形を進めていく一方で、これまで一貫して取り組んできた事業を質・量ともに充実させてゆきます。療養型病床の削減とともに退院促進が加速し、退院後の帰来先を確保できない高齢者等を地域で受け入れ、支えてゆく宿泊所や自立援助ホームの役割はますます大きくなってきています。また、地域生活支援センターを中心に、地域で暮らし始めた後のアフターケア、地域社会とのつながりを回復する支援もますます広げてゆく必要があります。そのために、今年度は新たに自立援助ホームの開設や精神障害をお持ちの方のグループホームのユニット増などを目指します。

自立援助ホームによる居住保障のさらなる展開と、介護などのサービス提供を就労支援事業とリンクさせ、職業訓練と雇用の受け皿づくりを進めてゆきたいと思えます。

私たちが進めてきた事業を通じ、社会が人を支える仕組みを提案し、実現させてゆくためにも、地域における包括的な支援システムを作ってゆきたいと思っています。介護・福祉・医療などの対人援助サービスが社会保障費を媒介に内需を拡大し、新たな雇用を生み出してゆく。こうした大きな展望のなかでわたしたちの支援プログラムを豊富化させてゆきたいと思えます。

本年も引き続きご支援のほど宜しくお願いいたします。



2. 越年冬まつりのご報告

全体報告

2008年12月28日から2009年1月3日にかけての7日間、ボランティアサークルふるさとの会は、恒例の越年冬祭りを開催しました。

今回は、昨年末からの派遣切り・正社員削減など不安な雇用情勢下の越年で、炊き出しに並んでいる人たちに何か

変化が見られるかを注意していましたが、特に例年と変わった層の人たちは見受けられませんでした。派遣を切られた労働者が即路上・即ホームレス化し、山谷に流れてくるという状況ではない様です。年が明けてから新たな職場を探そうとしている人や、日比谷の「派遣村」で年末年始を過ごす人もかなりの数に上ります。しかし、仕事が見つからない人や生保を受けられない人が山谷に流れてくる要素は充分にあります。現に、昨年末「派遣を切られた」という27歳の男性が敬老室の受付に相談に来られたこともありますし、他団体の炊き出しに並んでいた若い人に話しかけると、その方は33歳で、やはり「派遣を切られ、行くところがない」ということでした。今後、そうした方々への対応も視野に入れていかなければなりません。

今回は、こうした雇用不安の状況を背景に、例年よりもカンパをくださる方が多く、とりわけ米・野菜・衣類のカンパの件数が増えました。カンパに手紙が添えられ、「厳しい状況ですが、少しでも力になれば・・・」と励ましのお言葉をいただくことが多かったです。有り難いことです。今回、配食現場の隅田川沿いには200名から、多い日で300名を超える列ができ、配食数は400から500数十食を超えました。ボランティアの方の参加も多く、連日10数名から20数名、最終日の3日には34名の方が参加してくださいました。初めて参加された方のお話を聞くと、やはり昨今の雇用状況の不安から、路上生活者・ホームレスの問題の深刻さを感じ、「是非、自分もなにかの力になりたい」との気持ちから参加してくださった方が大半でした。

イベントとしては、毎日のビデオ上映の他、12月31日にはお馴染みのぼやぼやバンドのコンサート、その後の年越しそばの提供、そして最終日の1月3日には毎年行っている大田区の宿泊施設「なぎさ寮」での演芸会がありました。このイベントには毎年東京善意銀行友の会の芸人の皆さんにご協力をいただいています。60数名の利用者の方が最後まで席を立たず、懐かしい歌や、バナナのたたき売りの芸に集中していました。

今回の越年では、朝9:30からの調理や現場での配食もベテランボランティアの指示のもと、きわめてスムーズに進行することができました。炊き出しの作業も回を重ねる毎に効率が良くなっているように思われます。調理を終えてから配食に移るまでの時間に、十分なミーティングの時間を持つことができ、ボランティア同士のコミュニケーションを深めることができました。今回は連日晴天に恵まれ、なんらトラブルもなく、順調裡に7日間の炊き出し・配食をやり切ることができました。

これもひとえに、参加してくださったボランティアの方々、厳しい経済状況にもかかわらずカンパをくださった皆様のご支援の賜物です。お疲れさまでした。そしてありがとうございました。

(馬場英夫)

越年冬まつりに参加して

1月1日(木)に、ふるさと会ボランティアサークル「越年祭り」の一行事である隅田川の河原での炊き出しに参加しました。10名のボランティアの方々とともに、敬老室で開化井を調理し、利用者の方々に昼食を提供した後、休憩を挟んで、炊き出しを行うためにボランティア一行は隅田川へと向かいました。

13時半に現地に着くと、すでにそこには長蛇の列がつくられ、開化井の配食をいまかいまかと待ち望む路上生活者の方々の熱気で満ち溢れておりました。そうした熱気に圧倒されながらも、ボランティアの方々が熱心に配食するのをお手伝いさせていただきながら、陽の光に照り返る川辺に座り込んで仲間たちと談笑しつつドングリを威勢よく掻きこんでいる方々に感想を聞いてまわって驚いたこと、それは、即座に返ってくる「腹にたまって元気になるよ」、「うまい、助かるよ」といった感謝の言葉とともに、彼一人ひとりがためらいもなく見せてくれた快活な笑顔でした。

なかでも、半年前にリストラにあって以来の路上での厳しい生活状況を詳しくお話された後、にこやかに笑いながら、「今日はずよかった。また明日も来るからよろしく」と言って去っていったひとりの中年男性の生き生きとした表情がもっとも印象的だったのですが、こうした笑顔が炊き出しに来ていただいた方々が率直に見せてくれるのも、ボランティアサークルふるさとが長年の活動を通して築きあげてきた路上生活者の方々との信頼関係があってこそだと思つと、日々の誠意ある活動の継続がいかに重要であるかを改めて実感することができました。

今後もボランティアサークルふるさとの活動に積極的に参加し、路上生活者の方々との交流を深めていきたいと思っております。

(千葉 翼)



例年好評の年越しそば



なぎさ寮での出前ステージは初春気分を盛り上げてくれます



隅田川河岸では今年も寒い中たくさんの方が並ばれていました

お陰様で晴天の越冬となりました

3. 就労支援ホーム「はるかぜ」と「2丁目ハウス」開設しました！

ふるさとの会の就労支援事業部では多くの就労困難な方々に対して、仕事の相談・斡旋、技能講習など多様なプログラムを持って支援してきました。その中で就労の継続に不可欠な、心の安心、日常生活の安定を図る事の重要性を認識し今回新たに2つの就労支援ホームを開設しましたのでご報告いたします。

昨年12月1日墨田区に『はるかぜ』を、12月20日に台東区日本堤に『2丁目ハウス』を、それぞれ開設いたしました。『はるかぜ』は被保護世帯の母子、単身女性を対象にしており、『2丁目ハウス』は男性の生活保護を受けながら半就労、半福祉での就労可能な方を対象にしております。

現在『2丁目ハウス』は定員11名のところほぼ満室となり、就労へ向け、日常生活、社会生活の再構築の為のプログラムに沿って支援を行なっています。『はるかぜ』は入所にはまだ到っておりませんが、外国国籍の方、生後間もないお子さんをもつ女性など多数の問い合わせがきている状況です。

これらの就労支援ホームでは、就労継続に必要なベーシックスキルの構築を図り、生業扶助を活用した講習の調整を行い、職業紹介をし、当法人のケア付就労(臨時軽易な仕事・当法人職員による職場での見守り)による半福祉・半就労をはじめ、連携のヘルパーステーション(有限会社ひまわり)では、3年後の介護福祉士取得というステップアップを通じて長期的な就労支援の提供を行なっていきたいと考えております。また『2丁目ハウス』は併設しているコミュニティカフェを活用して地域住民の方々との交流を図り、地域の中での包括的な支援を行っていければと思っております。(松川恵子)



台東区日本堤2丁目に開設した就労支援ホーム「2丁目ハウス」の様子



4. 地域生活支援センター「すみだ」ガレージセール報告

地域生活支援センター「すみだ」の利用者の方々の今後の長い継続支援の一環として『安くて良いものを提供する！』をモットーに『ふるさと共済会』が発足しました。

便宜性、健康、人との繋がり、そして豊かさ、そんな諸々な『事』であったり、『物』に出会える場の提供でもあります。ふるさと共済会の新規登録者を募るにあたり、12月27日にセンターすみだでガレージセールを催しました。

当日のガレージセールの様子をセンターすみだの岡野職員から報告いたします。

岡野職員は海外でのホームレス支援活動経験もあり、菅沼センター長の下、センターの要となる一職員として日々さわやかな活動風景を展開しています。

- 普段センター「すみだ」を利用している移行支援事業利用者、元ホームレス被保護者自立生活支援プログラム参加者、リビング利用者をはじめ、なかには地域の住民の方も数人立ち寄ってくれました。
- 13時の開所前からセンター「すみだ」の入り口前には大勢の人だかりができ、皆さんガレージセールの開始を心待ちにしている様子でした。
- 今回のガレージセールの品物は、安い値段で良いものを提供することを目標に、職員全員で、茨城県水戸市の農業大学まで野菜・米を受け取りに行きました。「米は必需品だから助かる」と大量に何袋も買って行く人もいました。
- 今回は山友会のスタッフ・利用者の方々も衣料品の販売のためガレージセールに参加してくれました。下着類、Tシャツ、トレーナー等、皆さん好みの品物を楽しそうに選んでいました。
- 移行支援事業や元ホームレス被保護者自立生活支援プログラムの委託期間が終わった後も皆さんとの関係が途切れないように、一生つきあっていけるように、皆さんの生活に必要なもの・サービスをよりよく提供していけるようにという目的で会員登録をおこないました。登録される方はセンター「すみだ」に毎日のように来所される「常連さん」が目立ちましたが、中には「普段なかなか来れないけど今日はせっかくだから」とわざわざ登録のために遠方から来てくれた方もいました。
- 終始なごやかなムードの中でガレージセールを開催することができました。今後は、皆さんのニーズをよりよく把握し、商品・サービスを充実していきたいと考えています。

初回は、お正月前という事もありモダン門松など斬新なアイデア商品も飛ぶように売れたとの事で、やはりそこはふるさと共済会の会ならではのオリジナリティ溢れるマーケット風ガレージセールです。

楽しみな次回は1月31日の開催となります。噂が噂を呼び、回を重ねる毎に多くの方々の期待がさらに膨んでゆくことでしょう。

新たな年を迎え、他事業所の活動に触発されつつ、常にフレッシュな気持ちで日々の仕事に取り組みたいと、感じる場所です。

(佐藤信子)



年末押し迫っての開催にもかかわらず、多くの方が集まってくれました



日本農業実践学園で買い付けた野菜セット



ふるさと共済会への会員登録

たくさん用意されたモダン門松も
人気商品でした

5. 北九州支援機構20周年記念講演会と北九州研修

昨年12月23日、北九州ホームレス支援活動20周年記念事業の学習会・交流会に水田理事が招かれ、「NPOとはなにか？—ふるさとの会の使命(ミッション)」「今日の実況におけるホームレス支援と町づくり」と題して報告させていただくとともに、研修として見学をさせていただきました。

前半ではふるさとの会がボランティアサークルとしてはじまり、NPOとして事業展開をしていくうえで、職員がミッションを共有するための工夫について、後半では、事業として地域の社会問題を解決していくため、地域の中の社会資源の活用と連携が重要であることなど、私たちの取り組みを報告させていただきました。

講演の前後ではホームレス自立支援センター北九州や自立支援住宅(北九州支援機構の借り上げ住宅)、自立生活援助ホーム「抱樸館下関」などを見学させていただきました。自立支援事業を経て地域で生活している方々の「なかまの会」の活動からは、互助的な支え合いの仕組みづくりを学ぶとともに、継続支援がいかに重要であるかを、ふるさとの会の共同リビング・地域生活支援センターの活動に引きつけながら、支援機構のスタッフの方々との意見交換できたと思います。

抱樸館下関では、要介護の方、精神障害や認知症のケアが必要な方など、既存の社会資源では受け入れがされにくいケースをNPOの自主事業で支えている実情をみせていただきました。これもまた、ふるさとの会が宿泊所・自立援助ホームを運営していくうえで大変参考になることであり、今後とも相互に情報交換をさせていただきたいと思っています。

(瀧脇 憲)



6. シンポジウム「全国縦断講座 援助の必要な刑余者の地域生活支援」

1月9日仙台、16日東京に於いて、(社福)南高愛隣会主催で「全国縦断講座 援助の必要な刑余者(罪を犯した人)の地域生活支援」をテーマにシンポジウムが開催され、シンポジストとして、生活困窮者/野宿者等支援の立場からふるさとの会水田 前代表理事が、弊会の事業説明並びに更生保護相談事業の取り組みについて発表を行いました。

この全国縦断講座は、厚生労働省「平成20年度障害者自立支援調査研究プロジェクト」として、主宰する(社福)南高愛隣会より「罪を犯した障害者を地域で支える職員の研修プログラム開発に関する研究」委員を水田前代表理事が委嘱を受けており、12月15日札幌を皮切りに、3月3日福岡に至る全国8か所開催予定で、仙台・東京の2か所をシンポジストとして担当いたしました。

仙台、東京とも200名を超える参加者で会場が埋まり、平成21年度に事業開始予定の触法要保護者への「地域生活定着支援センター(仮称)」に高い関心が寄せられ、特に仙台では、法務大臣政務官である早川衆議院議員も駆け付けるなど、再犯率の低下に多くの期待が込められています。

東京では、基調講演で南高愛隣会田島理事長より、刑務所に入所する新受刑者の約半数の方がIQ79以下の数値(矯正統計年報)となっていると衝撃的な内容が話され、出所後何らかの福祉サービスあるいは地域支援の取り組みの必要性を訴えられました。

実践発表では、知的障害者入所更生施設「かりいほ」の石川施設長より医療少年院出所者のケアに関して、また川島弁護士からは裁判支援・入所前支援についての取り組みが報告されました。

一様に高齢や障害を抱える方を地域で支援するシステムがあれば、加害・被害問わず犯罪に巻き込まれなくて済むはずであり、刑務所から地域福祉サービスへ「つなぐ」機能を有する「定着支援センター」とともに「受け皿」となる地域支援システムの構築が急務であると問題提起をされていました。

ふるさとの会としても、触法要保護者に限らず支援を必要とする人たちへ、地域での安全安心な生活が送れるような取り組みを、今後も行っていきたいと考えております。
(秋山雅彦)



生活再建相談センター事業に関する発表



シンポジウムでは口々に地域生活支援の重要性が訴えられました

7. 小林史子展クロージングイベント Gallery Cafe 三富製作所

昨年12月20日に日本堤にオープンした、「Gallery Cafe 三富製作所」にて、オープニング企画『町のキオク、人のアト』へ、立体作品を制作している小林史子さんの展示がいよいよ2月7日をもって、終了いたします。

12月から徐々に作品の制作を行なって来ましたが、会場などの都合もあり、なかなか広く一般に公開することができませんでした。

このほど最終日の2月7日(土)、下記の通り「まちこうBAR」とのジョイントで完成作品の公開イベントを行います。この機会にぜひ作品とスペースをご覧いただければと思います。

Gallery Cafe 三富製作所 オープニング企画
小林史子インスタレーション『Mixed Nest』作品公開とイベントのお知らせ

台東区日本堤の〈Gallery Cafe 三富製作所〉(みとみせいさくしょ)は、有限責任事業組合『新宿・山谷ネットワーク』が開設したスペースです。

昔ながらの木造の木組みの残る、元町工場だった空間の持ち味を残して改装し、コミュニティに開かれたカフェとして運営しながら、アートの展示も含め、様々な活動を行ってゆく予定です。

このほど、スペースの正式なオープンに先立ち、アーティストの小林史子さんによるインスタレーション作品『Mixed Nest』の公開イベントを行なうことになりました。

小林さんは、身の回りにある様々なオブジェを素材に、その場との身体的な関わりを通して、ダイナミックなインスタレーションを制作しているアーティストです。昨年12月より、このスペースの改装で生じた廃材などを使い、作品の制作を続けてきました。

完成したインスタレーションは2月7日(土)に公開いたします。わずか一夜限りの展示ですが、アーティストが三富製作所の个性的なスペースに刺激を受けて生まれた作品を、ぜひこの機会に、みなさまにご覧いただきたいと思っております。なお当日夜は、墨田区両国で毎年行われているローカル・カルチャーイベント「まちこうBAR」が三富製作所に出張、「スパイスごはん モコモシ」によるフードと、國府田典明によるDJ x 環境音で空間を演出いたします。みなさま、どうぞお気軽にご来場いただければ幸いです。

日時	2月7日(土)午後5時～8時 作品公開とイベント
会場	Gallery Cafe 三富製作所 台東区日本堤2-37-1 → 地図 *東京メトロ日比谷線・三ノ輪駅3番出口、土手通りを吉原大門方面へ徒歩5分。明治通りを越えて三ノ輪一丁目交差点を左折左側一つ目の角。 *会場にはどうぞ暖かい服装でお越しください。
入場	無料 *フード、ドリンクは有料となります。
お問い合わせ	NPO法人自立支援センターふるさとの会事務局(古木) TEL 03-3876-8150
主催	Gallery Cafe 三富製作所
協力	まちこうBAR、曾我高明(現代美術製作所)
参考	小林史子HP http://www1.tcn-catv.ne.jp/fumikobayashi/ モコモシHP http://www7b.biglobe.ne.jp/~mocomeshi/



8. 今月のボランティア

1月18日(日)、敬老室ではカレーの昼食提供と、特別行事として「新春書き初め大会」を催しました。この日は利用者の方が多く、約80名の方がおいしいカレーに舌鼓を打ちました。書き初めのテーマは「今年の抱負」。厳しい時代に「難題」で、最初は参加者がなかなか現れず、ボランティアのみのイベントになってしまうかと心配しましたが、さすがは年輩の利用者の方々、1人、2人と筆を握りはじめ、最終的にはボランティアも含め、10名ほどが参加しました。

来月2月15日の特別行事のイベントの予定は「ものづくり大会」。利用者には元職人の方がいて、器用な方が多く、より多くの参加者が期待できます。ボランティアの方もぜひご参加ください。朝9:30に敬老室集合です。お待ちしております。

<連絡先>

ボランティアサークルふるさとの会 (担当: 町田/馬場)

TEL 03-3801-0377 FAX 03-3801-0881

E-mail boranteahurusato@gmail.com

ふるさとの会HP <http://www.d5.dion.ne.jp/~hurusato/>



1月の特別行事での見事な書き初め作品



昨年の特別行事『春の歌をうたおう』の様子

発行元: 特定非営利活動法人 自立支援センターふるさとの会

〒111-0031 東京都台東区千束4-39-6

TEL: 03-3876-8150 FAX: 03-3876-7950

E-mail: hurusato@d5.dion.ne.jp

HTML: <http://www.d5.dion.ne.jp/~hurusato/>